



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2024号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 鈴木 郁夫 幹事 前田 房江



広重版画より 三島 朝霧

第2087回例会

2015.9.17曇

司会

藤江康儀君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 平出利之君

会長挨拶

副会長 栗原達治君

先週の水曜日、台風来襲のさなか、年に1回の恒例の人間ドックに、中伊豆温泉病院まで、行って参りました。一つだけ確実に分かった結果は、昨年に引き続き、身長がまた1センチ縮んだということでした。

さて、行き帰りに狩野川、大見川の増水の様子を見ましたが、濁流が渦巻き、函南猫踊りの舞台となる河川敷は、増水の為、土の部分が見えなくなっているほどでした。翌日10日、北関東、南東北一帯を豪雨が襲い、鬼怒川が氾濫、常総市の殆どが、水没し、一週間過ぎた今でも、復旧していない地区もあるようです。この豪雨をもたらした台風17号は、変わった台風で、発生地はハワイの南の海上、そのため最初は台風でなく、ハリケーンと呼ばれ、日付変更線を越えてアジアに来たため、台風17号と名を変えた、今年2度目の越境台風であり、21日間も海上を移動し、熱帯性低気圧に変わってからも、今度はアメリカ本土に被害を与えたとのことでした。

新聞によりますと、狩野川の増水は危険水位まで達し、狩野川放水路が、今回も役立ったとのこと、知らぬうちに、私たちは危険から逃れていたようです。狩野川台風の多くの犠牲者と、昭和26年に着工し、狩野川台風により計画変更、改良された放水路のおかげです。

犠牲者を悼み、放水路や、復旧にかかわったすべての人々に深く感謝したいと思います。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	35/41	85.37%	38/41	92.68%
今回	39/46	84.78%	会員総数	49名

欠席者 坂本君、椛山君、鈴木(正)君、登崎君、橋本君、古川君、山口君

おめでとう

奥様誕生日 諏訪部(照)君
結婚記念日 佐々木君

スマイルボックス

- ◆川名君、この度、当社の企画しました新事業の「至福のテーブル」で第2回Mステ大賞の最優秀賞をいただく事ができました。これをはげみに益々仕事に精進します。ありがとうございました。
- ◆遠藤(真)君、8月24日、古稀の記念に富士登山をしてきました。中間は霧雨で頂上は晴天でした。私の人生のようです。2,3日筋肉痛で大変でした。
- ◆木村君、本日は卓話です。苦手種目ですが頑張ります。よろしく願います。
- ◆伊丹君、過日、当社のトーナメントゴルフやじきた会、大勢のメンバーの方達の参加ありがとうございました。お陰様で無事終了させていただきました。22会大会には是非多勢の方の参加希望致します。
- ◆鈴木(郁)君、遠藤正幸さんにDVDをいただきました。

2015～2016年度
国際ロータリー会長
K.R.ラビンドラン

世界へのプレゼントになろう

私の自己紹介と三島での16年の歩み

木村安紀夫君

今年の5月にロータリーに入会させていただいて早くも4ヶ月が経ちました。最初はお名前と顔が一致せず、緊張の毎日でしたが、皆様から優しく接していただき今では大分余裕が出てまいりました。まずは出席する事が私の義務だと思い、努めてまいりました。入会の労をとっていただいた伊丹さん、楢山さん、宇田川さんには大変お世話になりました。3人の方々は私の会社である木村商事の大切な取引先であり、良き友人であります。そしてまだ地元になじめない私のために会を作り、ゴルフ、飲み会を定期的に企画していただき楽しく過ごしてまいりました。昨年10月半ば、4人で長野一の名門コースである、長野カントリーに遠征する事となり、初日の晩、古い田舎屋を移築した、とても雰囲気のある旅館に泊まりました。食事も終わり、煙の漂う炉端の前で、お酒も沢山入った頃、伊丹さんから本題がありました。これは万事休すかなと思ひ、ロータリーに入会を決めた時でありました。今後はスポンサーの方々にご迷惑の掛からない様、本来のロータリーの基本概念に添って奉仕活動に専念してまいりたいと思ひます。

さて、私は昭和27年生まれ、62歳です。神奈川県藤沢に生まれ、大学を卒業、兼松江商鉄鋼部に入社、25年にわたり国内鉄鋼問屋向けに、鋼材の販売を担当してまいりました。その間6年ほど北海道に勤務、ゴルフ、スキー、麻雀、ウイスキーを覚え青春を謳歌いたしました。平成12年2月、母方の実家の稼業である、木村商事を引き継ぐため、兼松を退社、三島の地で第2の人生がスタートしました。最初は30kgの砂糖を担ぐ事から始め、4トン車のトラックも度々運転いたしました。平成23年2月に社長に就任、次いで平成26年1月、木村家の跡継ぎとして前社長の木村誠之助(実兄)夫妻と夫婦養子縁組を行い姓を遠藤から木村に改名し今日に至ります。趣味は音楽(チェロの演奏)、旅行、山歩き、下手なゴルフです。私の勤める木村商事は沼津仲町にて明治元年創業、昭和26年、母方の叔父である木村高三が創業、食品原材料、砂糖、米、小麦粉、食用油等を静岡県一円、神奈川県に販売する会社であります。現在は、父母が戦時中疎開していた清水町堂庭に本社を移転し、静岡県の菓子屋、麵屋、食品メーカー、スーパーなどに卸売販売をしております。皆様方にもお知り合いがあれば是非ご紹介をお願い致します。

明治生まれの父は藤沢市で鉄工所を経営、昭和40年に縁あって藤沢ロータリークラブの設立メンバーとして、入会いたしました。ロータリーの楽しさ、人との触れ合い、奉仕活動の大切さなど、色々見聞きしてまいりました。私はまだ若輩者で、ロータリーへの入会は烏滸がましいと考えておりましたが、これからは、気持ちを切り替え、楽しく有意義な奉仕活動、ロータリー人生が歩めるよう努力してまいり所存でありますので、どうかお仲間に入れていただき、何卒よろしくお願ひ申しあげます。

ROTARY NEWS

識字率向上へのチャレンジ

世界には読み書きができない成人が数百万人おり、このため家族を十分に養う上で困難を抱える人たちが大勢います。教育が進んでいる米国でも、小学3年レベルの読み書きができない成人は3,600万人(非営利組織『ProLiteracy』調べ)。デトロイト市で行われた調査では、17歳以上の人口のうち、日常で必要とされる読み書き、会話、コンピューターのスキルがない人がほぼ半数に上ることが明らかになりました。

同市で識字力向上を支援している団体『Reading Works』のプログラムディレクター、クリステン・バーンズ・ホリデーさんによると、地元機関・団体の多くが資金・人材不足に困窮しており、長年の取り組みにもかかわらず改善が遅々として進んでいないそうです。非識字が原因で多くの問題が引き起こされます。識字力の欠如は貧困を生むだけではありません。医薬説明書を読めないために健康リスクが高まり、コンピューター社会の中で取り残され、地域経済の停滞を招きます。「読み書きができず、手に職をつけられない親の元で育ち、学校での限られた教育しか受けられない子どもたちが大勢いる」とクリステンさん。「学校教育に十分な予算を充てれば事態は好転すると期待する人もいますが、家庭環境を改善しないことには真の変化は見込めません」地元のマーク・ウィルソンさん(グロスポイントロータリークラブ会員)は、成人への識字教育に対する配慮が不十分だと指摘し、これこそ長期の悪循環を生む原因だと話します。「読み書きできない子どもには同情が寄せられるのに、大人だとそうはなりません」

そこで、周辺地域のロータリークラブがProLiteracyと提携し、教育指導員を増やすための募金を実施。また、市と協力して約26万冊の図書と587台のパソコンを識字関連団体に寄贈したほか、ロータリーからの補助金でオーストラリアから専門家チームを招き、教育指導員を対象とした研修を行いました。さらに、地域社会の認識を向上するためのテレビ番組を始めるために、この補助金が活用されました。その結果、教育指導員から読み書きの指導を受けた成人500名が、テストの結果、3学年分に相当する識字能力を向上できました。このプロジェクトは期待以上の成果を生んでいると、ProLiteracy責任者のマーガレット・ウィリアムソンさん(デトロイトロータリークラブ会員)は話します。「私たちは単なる読み書きの力だけでなく、就職のためのスキル向上にも力を入れています。ロータリーのネットワークを通じて働き口を紹介してくれる人もいます」

これらの取り組みによって行政も動き出し、地元自治体から職業訓練のための助成金も提供されました。これでさらに多くの教育指導員を生み出し、活動を広げていくことが可能になります。「相乗効果が出ている」と、マーガレットさんは話します。マークさんはこう言います。「身につけた読み書き能力は、一生、その人を支える力となります。この力を一つ一つ、地域社会で育てていきたい。それが私たちの目標です」

(週報担当:遠藤眞道)